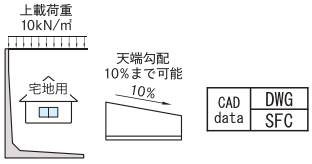
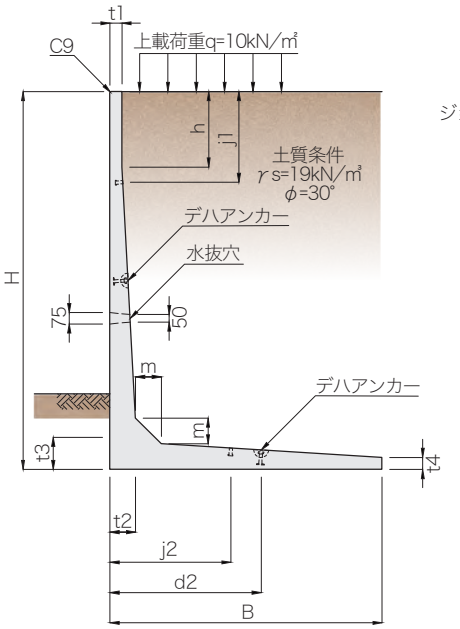
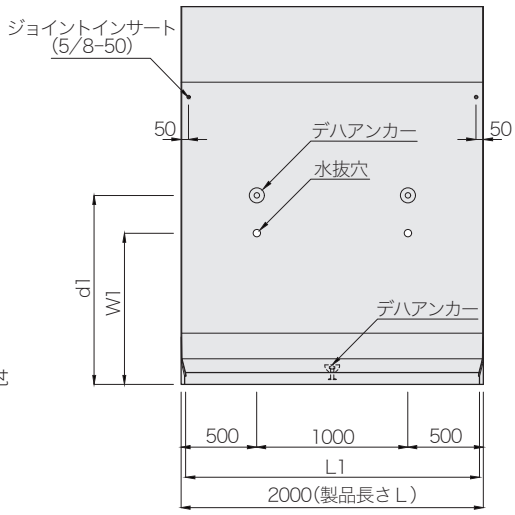


エルフォームGタイプ(宅地用)

L型擁壁

前壁が垂直のため敷地用地を最大限有効に活用できるL型擁壁です。
構造力学的な検証のもとに製品の軽量化を図り、経済性・施工性に優れたL型擁壁です。
法面形状や道路勾配に合わせた天端勾配とすることができます。
擁壁高さは10cm単位の高さに設定することが可能です。

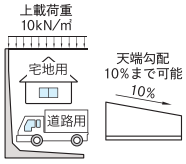




呼び名		寸 法 (mm)														参考質量(kg)	地盤反力度(kN/㎡)
		H	B	L1	t1	t2	t3	t4	m	h	j1	j2	W1	d1	d2		
Gタイプ 上載荷重 q=10kN/㎡ 土質条件 γs=19kN/㎥ φ=30°	G- 50	500	600	1984	75	75	75	75	75	—	100	250	400	—	300	384	23.21
	G- 60	600									200					419	28.97
	G- 70	700									300					454	35.74
	◎ G- 75	750									100			600		472	39.53
	G- 80	800									150					490	43.62
	G- 90	900	750	1980							250					581	43.17
	◎ G-100	1000									350					616	50.56
	G-110	1100	950	1975	80	100	100	83	100	100	200	500	600	800	500	873	48.38
	G-120	1200								200	300					910	54.92
	◎ G-125	1250								250	350					929	58.44
	G-130	1300								300	400					948	62.12
	G-140	1400	1100	1970				80		400	500					1046	61.55
	◎ G-150	1500								500	600					1084	68.49
	G-160	1600	1250	1965	80	140	140	88	140	100	200	650	700	1100	600	1500	68.77
	G-170	1700								200	300					1537	75.51
	◎ G-175	1750								250	350					1556	79.06
	G-180	1800	1400	1960				80		300	400					1637	75.13
	G-190	1900								400	500					1674	81.71
	◎ G-200	2000								500	600					1712	88.74

注(1)呼び名に◎印がついているものが標準規格品です。
その他、擁壁高Hについては10cm(100mm)単位で任意の寸法とすることができますので、あらかじめ担当営業にお問い合わせください。
(2)製品長さL=1000他、任意のL寸法にも対応できます。
(3)擁壁天端の勾配は10%まで型枠にて製造可能です。(G-110・160は5%まで)また、10%を超える場合はカット対応となります。
(4)擁壁は設置される高さ、地形あるいは地盤条件、上載荷重条件などにより、構造形式、基礎形式が変わりますので事前の調査、検討を行い、設計計画をしてください。
(5)基礎高さ及び擁壁高さが異なる場合はジョイントインサートの取付け位置にずれが生じますので、あらかじめ展開図等で確認をしてから工場で加工をします。
(6)地盤反力度につきましては標準的な土質で、背面はレベル上載荷重10kN/㎡として構造計算を行って求めた地盤反力度(参考値)です。

エルフォームＧ１タイプ(道路用)

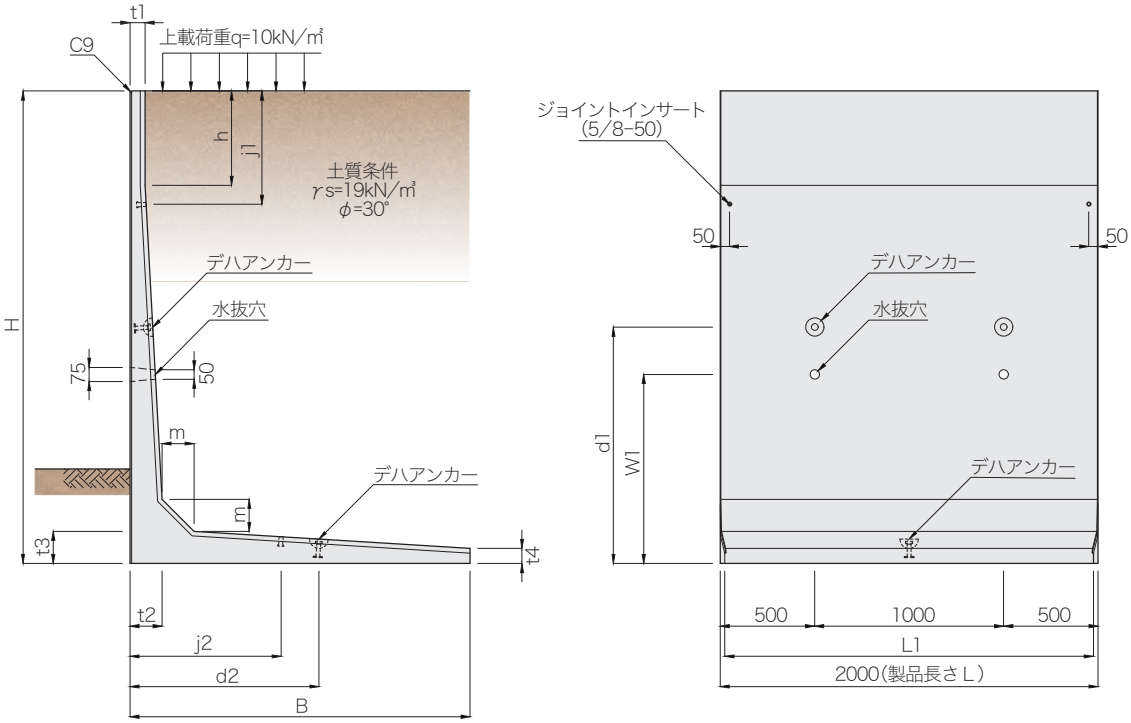


Ｇタイプ以上に安定します

CAD data | DWG | SFC

Ｌ型擁壁

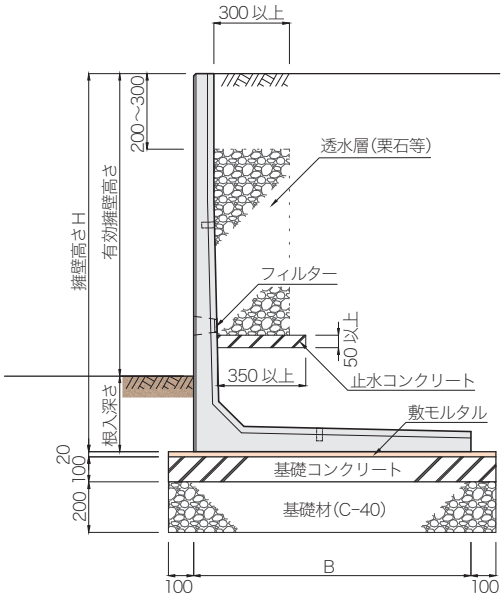
前壁が垂直のため敷地用地を最大限有効に活用できるＬ型擁壁です。
構造力学的な検証のもとに製品の軽量化を図り、経済性･施工性に優れたＬ型擁壁です。
法面形状や道路勾配に合わせた天端勾配とすることができます。
擁壁高さは10cm単位の高さに設定することが可能です。



呼び名		寸 法 (mm)														参考質量(kg)	地盤反力度(kN/㎡)
		H	B	L1	t1	t2	t3	t4	m	h	j1	j2	W1	d1	d2		
G1 タイプ 上載荷重 q=10kN/㎡ 土質条件 γs=19kN/㎥ φ=30°	G1- 50	500	700	1982	75	75	75	75	75	−	100	250	400	−	300	419	21.85
	G1- 60	600									200					454	26.62
	G1- 70	700	750	1980							300					506	30.86
	◎ G1- 75	750									100			600		524	33.65
	G1- 80	800									150					542	36.63
	G1- 90	900	850	1977							250					616	39.46
	◎ G1-100	1000									350					651	45.65
	G1-110	1100	1000	1973	80	100	100	82	100	100	200	500	600	800	500	892	46.66
	G1-120	1200								200	300					929	52.76
	◎ G1-125	1250								250	350					948	56.03
	G1-130	1300	1150	1969				79		300	400					1023	53.43
	G1-140	1400								400	500					1064	59.44
	◎ G1-150	1500								500	600					1102	65.96
	G1-160	1600	1300	1963	80	140	140	84	140	100	200	650	700	1100	600	1520	66.69
	G1-170	1700								200	300					1557	73.07
	◎ G1-175	1750								250	350					1576	76.43
	G1-180	1800	1450	1958				77		300	400					1665	73.10
	G1-190	1900								400	500					1692	79.37
	◎ G1-200	2000								500	600					1730	86.05

注(１)呼び名に◎印がついているものが標準規格品です。
その他、擁壁高Ｈについては 10cm(100mm)単位で任意の寸法とすることができますので、あらかじめ担当営業にお問い合わせください。
(２)製品長さＬ=1000 他、任意のＬ寸法にも対応できます。
(３)擁壁天端の勾配は10%まで型枠にて製造可能です。(G1-110･160は５%まで)また、10%を超える場合はカット対応となります。
(４)擁壁は設置される高さ、地形あるいは地盤条件、上載荷重条件などにより、構造形式、基礎形式が変わりますので事前の調査、検討を行い、設計計画をしてください。
(５)基礎高さ及び擁壁高さが異なる場合はジョイントインサートの取付け位置にずれが生じますので、あらかじめ展開図等で確認をしてから工場で加工をします。
(６)地盤反力度につきましては標準的な土質で、背面はレベル上載荷重 10kN/㎡として構造計算を行って求めた地盤反力度(参考値)です。

エルフォーム布設標準構造図(参考資料)



材料表　　10m当り

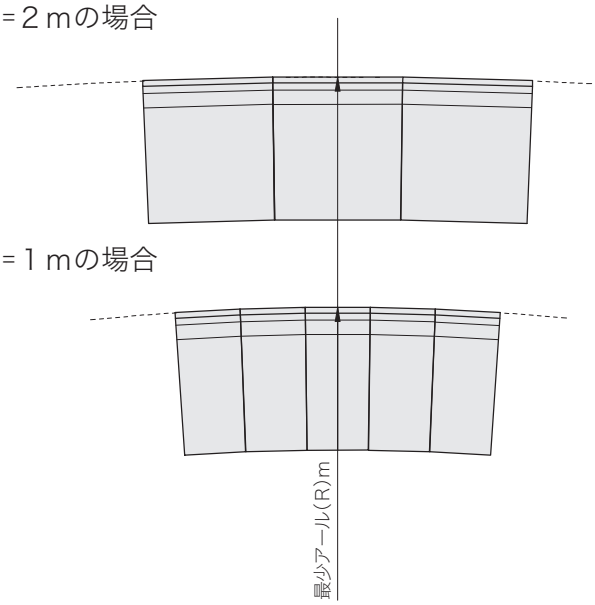
種　別	規格・寸法	単位	数量
擁　壁	エルフォームG・G1-75～200	本	5.0
敷モルタル	1：3	㎥	=(B+0.2)×0.02
基礎コンクリート	18-8-20	㎥	=(B+0.2)×0.1
基礎材	C-40(t=20cm)	㎡	=(B+0.2)×10

注(1)基礎地盤が軟弱の場合は別途、基礎の設計が必要です。
(2)根入れ深さは、基礎底版が地表に出ないようまた排水施設等の構造物より充分な余裕をみて設定しなければなりません。
根入れ深さは、標準図による擁壁で使用条件が明記されているものを除き、一般的に、擁壁高さの15/100以上かつ35cm以上とし、安定した支持地盤に施工しなければなりません。

曲線部(アール)施工(参考資料)

①製品L=2mの場合

②製品L=1mの場合



呼び名	最小アール(m)	
	L=2.0m	L=1.0m
G・G1- 75	74.5	37.5
G・G1-100	71.5	36.0
G・G1-125	74.0	37.0
G・G1-150	72.0	36.0
G・G1-175	71.5	35.5
G・G1-200	70.0	35.0

(注)ここでの最少アールは標準品を使用した場合のものです。

施工歩掛り(参考資料)

10m当り

呼び名	労力(人)			トラッククレーン		諸雑費率(%)
	世話役(人)	ブロック工(人)	普通作業員(人)	規格	運転時間(日)	
G・G1- 75	0.3	0.5	1.1	5t	0.3	9.0
G・G1-100						
G・G1-125						
G・G1-150						
G・G1-175						
G・G1-200		0.6	1.3	10t	0.4	

注(1)歩掛りは、標準的なもので、現場の状況により増減します。
(2)クレーンは、規格の能力以上のものを使用してください。一般的に製品質量の3倍以上のものを手配願います。
(3)諸経費は、敷モルタル等の費用であり、労務費の合計金額に上記の率を乗じた金額を上限として計上願います。
(4)歩掛りには、現場内小運搬、据付調整を含みますが、床堀、埋め戻しは、別途計上願います。